

二〇二二年二月十八日(参加者一七名)

吟行す嵯峨野の道の日短	菜々
冬晴れの寺門ここより熊野道	"
冬菊を多に新町名妓の碑	"
グルメなる宴が目当て納め句座	"
びんづる撫で知恵の輪くぐり年惜しむ	"
一門の墓どころらし笹子鳴く	宏 虎
身じろがぬ檻の大鷹威厳あり	"
たあいなきことが幸なり古日記	"
風に散るなぞへの五彩紅葉かな	ひかり
さざ波の寄せる池塘の草紅葉	"
超高層ビル冬天へ傾ぐかと	"
ベートゥベン聞きてやる気の年用意	よし子
九体仏温顔並ぶ冬日和	"
山風に搬ばれてきし落葉掃く	"
引導の鐘にさゆれて金鈴子	はく子
布袋尊の大腹なでて冬ぬくし	"
冬日全し禅寺砂紋乱れなし	"
大石の凹みあふるる落葉嵩	つくし

年惜しむ通天閣をたもとほり	"
公園の将棋族みな着膨れて	小 袖
藩跡のしじまの小道茶の蕾む	"
朴訥として直立す大枯木	せいじ
うす暗き門に橙黄なりけり	わかば
通天閣抽んでてをる冬木立	こすもす
冬靄を払はんと伸ぶクレーン車	きづな
着ぶくれて額づきのぞくウインドウ	満 天
冬天へピラミッドなす無縁仏	"

定例句会みの選

二〇二二年二月十八日(参加者一七名)